

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	カルテ入力支援による在宅医療の品質と効率の両立
演者名	中村 昌平 佐々木 淳
所属	悠翔会在宅クリニック

【目的】

在宅医療においては、カルテに診療・指導内容に加え、療養環境や患者背景を理解するための「ものがたり」など、通常の外来診療よりも多岐にわたる内容が記載される。しかし、訪問診療中のカルテ入力は医師にとって負担であり、患者の診療満足度を低下させる要因ともなる。そこでアシスタントによる電子カルテ入力支援を通じてこれらの課題解決を試みた。

【実践内容】

アシスタントが医師の訪問診療に同行する。患者・家族・介護者と医師の会話および医師による口頭指示に基づき、SOAP 形式で電子カルテに診療内容を記載した。行為・処方内容については記載時に医師と内容確認を行った。なお、アシスタントは医療職としての資格は特に有しない。

【実践効果】

アシスタントによる入力支援で、医師の診療品質・患者満足度の向上のみならず、記録品質も改善した。また、診察時の医師と患者の対話が増加した。以前より院内調査にて「電子カルテを操作しながらの診療はマイナス印象」との指摘が複数あったが、医師が患者と目線を外すことなく診療することが可能となった。またカルテ記載内容が充実し記載ミスが減少した。これにより、診療チーム内での情報共有及び請求業務がより円滑となり、薬局からの疑義照会も減少した。施設診療（集団診療）においては、診療評価を下げることなく、施設内での拘束時間を短縮することができた。また、診療担当医師は管理患者数の増加に対しても、特にストレスなく対応できた。

【考察】

今後、在宅医療に対するニーズはさらに拡大していくことが予想されるが、今年度の施設診療に対する診療報酬の改定で見られるように、今後、診療の品質と効率の両立が求められていく可能性がある。アシスタントによるカルテ入力支援は、医師の診療外業務の軽減を通じて、診療品質や患者満足度を維持・向上しながら、診療効率を高めることができる。それにより、診療コストの削減にも貢献できる。